

特集 木之本宿

歴史的建造物や町並みを活かしたまちづくり

中世から木之本地蔵院(浄信寺)の門前町として栄え、江戸時代は北國街道と北國脇往還が合流する宿場町として繁栄した木之本宿。

現在もその面影を色濃く残し、まち歩きを楽しむ観光客や浄信寺を参拝に訪れる人々の往来があります。

県内でも有数の歴史的建造物の密集地であり、宿場町としての町家建築だけでなく、昭和の近代建築が織り交ざった魅力的な町並みが広がっています。

人口減少など様々な社会情勢の変化により、貴重な町家の解体や空き家化が見られる中、地域住民による街道の歴史や町並みの研究、建築物を活かしたまちづくりへの取り組みが進められています。



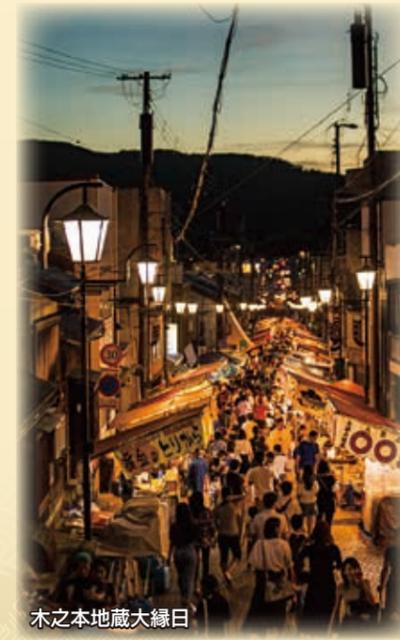
意富布良(おほふら)神社春季大祭



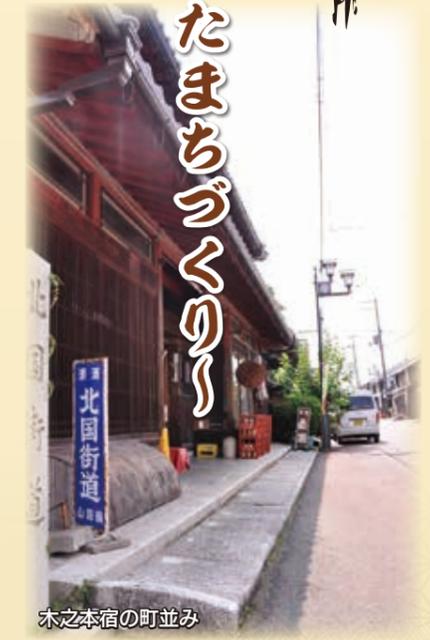
秋葉祭り



七本槍まつり



木之本地蔵大縁日



木之本宿の町並み



木之本ノスタルジー



いろはにほん箱



夕涼み横丁



ダイコウ醤油

きのもと交遊館(旧滋賀銀行木之本支店)

湖北銀行木之本支店として、昭和10年に建築された建物である。昭和17年に湖北銀行は滋賀銀行に合併され、滋賀銀行木之本支店として昭和60年まで利用されていた。

構造は鉄筋コンクリート造2階建。外部仕上げは基壇部分は花崗岩で、その他は人造石洗出し仕上げとなっている。



きのもと交遊館

ダイコウ醤油

ダイコウ醤油主屋は、創業が嘉永5年(1852)という醤油醸造業(ダイコウ(大幸)醤油)を営む町家である。木造中二階建ての平入家屋で、主屋の規模は間口5間幅、奥行6間。主屋の裏手には風呂などが角屋状にのび、また裏庭を挟んで二階建ての離れ座敷が建てられている。



白木屋醤油店

白木屋醤油店

白木屋醤油店主屋は、間口約4間、奥行6間と、木之本地区では標準的規模の平入2階建ての町家である。近世以来、白木屋という屋号で醤油醸造業を営み、今日もなお主屋裏手には作業場や醤油蔵が奥行方向に長く延びて連なっている。これらが細長い短冊状の敷地の中で奥に向かって一直線に並び建つその全体構成は、伝統的な醤油醸造業の業態と建築の様相をよく留めている。

富田酒造

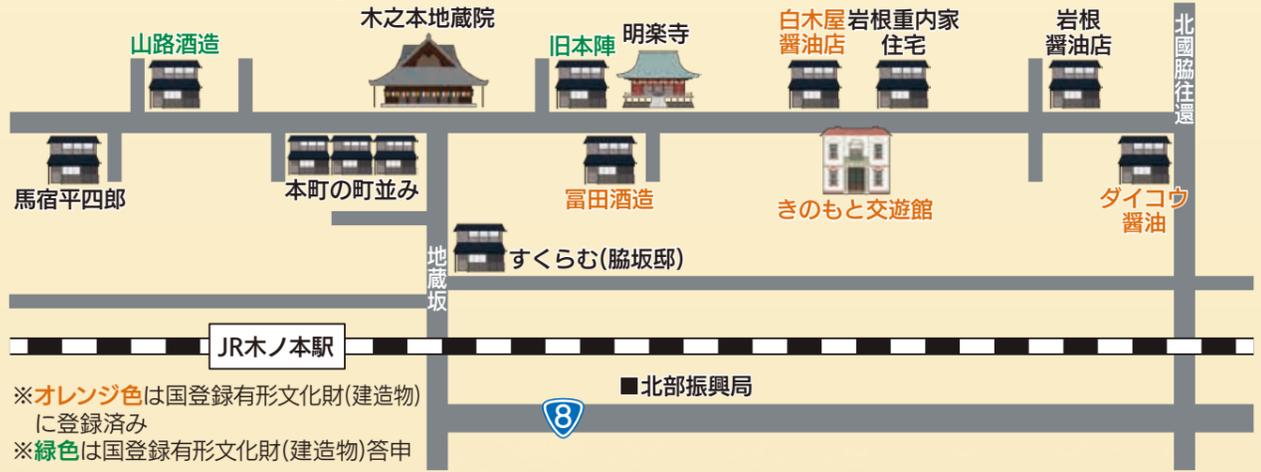
富田酒造は、「七本槍」の銘柄で知られる造り酒屋である。少なくとも戦国時代には、この地で酒造業を営んでいたとされる旧家で、主屋の建築年代は延享元年(1744)である。

北國街道木之本宿の日本陣の筋向いに位置し、表間口13間半、背面は裏道まで続いて広大である。



富田酒造

北國街道 木之本宿 町家マップ



※オレンジ色は国登録有形文化財(建造物)に登録済み
※緑色は国登録有形文化財(建造物)答申

山路酒造

山路酒造は、「桑酒」などの銘柄で知られる造り酒屋で、創業は天文元年(1532)と伝わり、日本でも有数の歴史を誇る。

間口約29m、奥行は約78mと長大な敷地で、通りに面して建つ大型の主屋の背後に酒造関係の諸建築がある。江戸時代には、木之本宿の脇本陣役を務め、また近世末期には人馬を検認する伝馬所も兼任したといわれる。

旧街道の東側に間口12間半もの大きな主屋が通りに面して建つが、南側の棟は、座敷棟で通りから後退させて建てることで、前面に前庭を設けて門を建て、脇本陣に対応しい表構えをしている。



山路酒造

旧木之本宿本陣(竹内家住宅)

竹内家は、木之本宿の本陣を代々務めた家系で、同家には現在も元文5年(1740)以来の宿駅関係資料が伝来し、多数の宿札も現存している。明治時代以降は薬局を営まれている。

本陣主屋は、地区内でも最大級の大型家屋で、建築年代は延享元年(1744)であることが棟札から明らかで、同年の木之本大火災直後に再建されたものと考えられる。



旧木之本宿本陣